

草の根技術協力（支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	フィリピン共和国
2. 案件名	バンサモロ地域における平和のためのカカオ・チョコレート産業育成事業
3. 事業の背景と必要性	<p>フィリピン南部ミンダナオ島のバンサモロ地域では、イスラム系反政府勢力と政府軍との間で長年にわたり武力紛争が続いてきたが、2014年の包括和平合意を契機に和平プロセスが本格化した。2018年にはバンサモロ基本法が成立し、2019年にはバンサモロ暫定自治政府（BTA）が発足するなど、2026年の自治政府設立に向けて着実な前進が見られる。現在、地域は持続的な平和の基盤を確立する重要な段階にあり、紛争の影響で厳しい生活を強いられてきた住民が「平和の配当」を実感できる経済発展が求められている。</p> <p>平和の進展に伴い商業活動は徐々に拡大しているが、地域経済の基盤である農・水産業および関連産業の発展は依然として喫緊の課題である。中でも、世界的なカカオ・チョコレート需要の増加を背景に、カカオ産業はバンサモロ地域にとって有望な成長分野と位置付けられており、隣接するダバオ地域は国内のカカオ豆生産量の約8割を占めており、自然条件が類似するバンサモロ地域にも高い潜在性が期待されている。</p> <p>しかし、紛争下での市場へのアクセスが制限されていたことなどから、バンサモロ地域のカカオ生産は低迷し、2015年時点で国内全体の約2%にとどまっていた。現在、暫定自治政府の農業・水産・農地改革省（MAFAR）は「カカオ産業育成ロードマップ」を策定し、カカオを最優先農産品の一つとして位置付け、毎年5%の生産量増加を目指しているが、現地農園では生産性の低さや人材育成の不足といった課題が依然として残っている。</p> <p>本事業は、専門的な知識や技術を学ぶ機会が限られてきた農園や生産者組合を対象に、カカオ・チョコレート産業の育成を支援するものである。生産性向上と付加価値創出を通じて生計改善を促し、地域社会の安定化を後押しするとともに、自治政府と住民との信頼関係を強化し、バンサモロ地域における平和構築に寄与することを目指す。</p>
4. プロジェクト目標	バンサモロ地域内での（1）「ブランディングされた自立的で高品質のカカオ豆を生産する生産販売組合」及び（2）「高品質でブランディングされたチョコレートをカカオから生産する生産販売組合」という二つの事業モデルの創出。
5. 対象地域	南コタバト州
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・直接受益者：研修に参加するバヤン町（南ラナオ州）の生産組合員延べ10名、ダトゥ・オディン・シンスワット町（北マギンダナオ州）の生産組合員延べ10名、MAFAR職員17名 ・間接受益者：バヤン町（南ラナオ州）の生産組合員15名及びその家族約80名、ダトゥ・オディン・シンスワット町（北マギンダナオ州）の生産組合員505名及びその家族約2,040名
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kakaw Meranaw と「平和の光」農園の二つの生産販売組合が、MAFAR モデル（1）「ブランディングされた自立的で高品質のカカオ豆を生産する生産販売組合」として機能し始める。 2. Kakaw Meranaw が生産するチョコレートの品質が向上する。 3. 「平和」のチョコレート・ブランドの前提となるブランド・アイデンティティが形成される。 4. MAFAR がカカオ・チョコレート産業育成の能力を向上させ、MAFAR モデル（2）「高品質でブランディングされたチョコレート生産」という事業モデルが形成される。 5. バンサモロ地域内の他の農家や生産販売組合が、2つのMAFARモデルによって支援を受けられる体制が整う。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1：Kakaw Meranaw と「平和の光」農園を中心とするバンサモロ地域の生産販売組合員10名に対するカカオ豆の生産、発酵、乾燥技術に関する技術研修を南コタバト州で年1回ずつ、計2回行う。 1-2：1-1の研修を受けたMAFAR技官とオンラインで品質管理状況確認ミーティングを実施し、農家に対し必要なアドバイスを行う。 1-3：品質が向上したカカオ豆を広島のビントウバー・チョコレートの生産者に紹介するイベントを実施する。

	<p>2-1 : Kakaw Meranaw 組合員と「平和の光」農園組合員それぞれ 2 名に対するチョコレート生産技術の広島での研修を行う。</p> <p>2-2 : Kakaw Meranaw に必要に応じてオンラインでチョコレート生産に関するアドバイスをを行う。</p> <p>2-3 : マニラに作るバンサモ口政府のアンテナショップで研修の成果を披露するイベントを行う。</p> <p>3-1 : Kakaw Meranaw 組合員と「平和の光」農園組合員それぞれ 2 名ずつ及び MAFAR (必要があれば BTA 貿易投資観光省 (MTIT) を含む) の事業担当行政官にブランド・アイデンティティに関する研修を行い、「平和」をコンセプトとする地域ブランド・アイデンティティを形成する。</p> <p>4-1 : カウンターパートである MAFAR の事業担当技官に対するカカオ豆の生産、発酵、乾燥技術に関する技術研修を、1-1 と並行して南コタバト州で行う。</p> <p>4-2 : MAFAR 行政官が Kakaw Meranaw と「平和の光」農園のチョコレート研修を参与観察し、高品質なチョコレートの生産について学び、またブランド・アイデンティティに関する研修を受け、アイデンティティ形成のコンサルテーションに参加する。</p> <p>4-3 : 活動 1-2 を通じて、4-1 の研修を受けた MAFAR 技官に、品質管理にかかるアドバイスをを行う。</p> <p>5-1 : 活動 1-1 の研修に基づく映像及び紙媒体の教材をバンサモ口政府と広島大学とが協力して作成し、Kakaw Meranaw、「平和の光」農園及び MAFAR に提供する。</p> <p>5-2 : ミンダナオ国立大学ジェネラル・サントス校や南ミンダナオ大学を含めたミンダナオ島西部のカカオ生産関係の研究者ネットワークを形成し、カカオの病虫害への対処など、MAFAR が品質管理の際や農園からの要請を受けた際に生産上の問題に対処できる支援体制を構築する。</p>
8. 実施期間	(西暦) 2026 年 1 月～2028 年 1 月 (2 年間)
9. 事業費概算額	9,993 千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	バンサモ口暫定自治政府 (BTA) 農業・水産・農地改革省 (MAFAR)
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	国立大学法人広島大学大学院人間社会科学研究科国際平和共生プログラム 片柳真理研究室
2. 主な活動内容	広島大学は平和構築連携融合事業において 2006 年からバンサモ口和平問題に取り組む、2010 年に広島県とも同事業の連携パートナーとなり、両者で JICA ミンダナオ研修 の実施に協力するなどしてきた。また 2013 年度からは、両者は共同して、JICA 草の根 技協 (地域活性化特別枠) によりバンサモ口政府公務員候補者育成事業に取り組んだ (2015 年度まで)